

1 福井県議会の同時文字表示（音声文字化）について

議会名	形態	運用開始時期	年間コスト	変換精度	運用している会議
福井県	委託	<ul style="list-style-type: none"> 高校生議会で試行。 平成29年6月定例会から運用開始 	約114万円 （タブレット、アプリリース代等） ※導入時初期コスト（モニタ等）としてプラス約12万円	<ul style="list-style-type: none"> 文字表示はオペレーターが入力。分からない言葉がある場合は***で表示される。 誤変換はあまり見受けられない。 	代表質問（H29.6～） 一般質問（R元年度～）
川崎市	直営	平成31年第1回定例会から運用開始	約44万円 （タブレット、アプリリース代等） ※導入時初期コスト（モニタ等）としてプラス約26万円	<ul style="list-style-type: none"> 原稿に基づき発言者がマイクに向かってしっかり話す環境では比較的よい。 音を拾うマイクの環境によって変換精度に差がある。 アプリのバージョンアップによって変換精度も上がる。 	提案説明 代表質問 予算審査特別委員会等

2 会議録作製における音声認識システムの利用について

議会名	形態	初校について	年間コスト	変換精度
北海道	委託	1週間以内	約294万円※2	不明
宮城県	直営	1～2ヶ月	約133万円	課題がある
東京都	委託	翌日	約2,000万円※2 (ただし委員会込)	平均9割強※1
大阪府	委託	約2週間	約290万円(決特含)※2	不明
広島県	直営	原則当日中	約26万円弱 ※ただし導入時ソフト及び機器買取	平均9割強程度。

(注) 上記は、本会議での利用が確認された議会の状況であり、いずれも音声変換の基本ソフトとしてAmi Voiceを利用（(株)アドバンスト・メディア）

※1:計測は10年前。

※2:北海道と大阪は反訳機器関連費用のみ。東京は、委託費用及び反訳機器関連費用全体。